

所内研究報告第81号

2019年3月29日

国立社会保障・人口問題研究所 2017～2019 年度人口問題プロジェクト研究

長寿革命に係る人口学的観点からの
総合的研究

— 第2報告書 —

まえがき

わが国の平均寿命は 20 世紀後半に著しい伸長を遂げ、2017 年には男性 81.09 年、女性 87.26 年と、世界有数の長寿国となった。「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」によれば、平均寿命は 2065 年には男性 84.95 年、女性 91.35 年（死亡中位仮定）に達すると推計されている。このような驚異的な寿命の進展は人類の大きな達成の一つであり、「長寿革命」と称されることもある。

このような世界最長寿国であるわが国の長寿化の要因・影響に関する分析に加え、健康寿命の延伸等、長寿化の進展と健康期間の関係等に関するメカニズムの解明や、さらに得られた研究成果を国内および国際的に発信することは、わが国の人口学研究における重要な課題となってきたところである。

こうした状況の中、本研究所では「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」（平成 23～25 年度）および「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」（平成 26～28 年度）」において、わが国初の試みである「日本版死亡データベース(Japanese Mortality Database、以下 JMD)」の開発を中心としながら、人口学的・学際的分析を進めてきた。本研究プロジェクトは、これらの先行プロジェクトの成果をさらに発展させつつ、長寿革命にかかる人口学的観点からの総合的研究を行うことを目的としている。

本研究プロジェクトは、①日本版死亡データベースの整備・充実、長寿化に関する人口学的研究への応用、②高齢者に関する健康および長寿者に関する研究、③高齢者の死亡過程に関する研究、④高齢者に係る学際的な研究と成果の発信という 4 つの領域から研究が推進される。また、プロジェクトメンバー（所内・所外委員）に加え、厚生労働省で統計や数理の実務に携わっている方々や民間企業のアクチュアリーなど専門家の方々に外部協力者として参加していただいていることも本プロジェクトの特色の一つとなっている。

本報告書はプロジェクトの 2 年度の研究成果を取りまとめ、「第 2 報告書」として刊行するものである。本報告書は 3 部構成になっており、第 1 部（総論）で研究の概要を述べ、第 2 部（各論）には研究班員による個別論文を収録した。また、第 3 部には本年度開催した研究会における報告資料を収録した。

本研究プロジェクト実施に当たっては本研究所内外の多くの方々のご協力を得た。とりわけ本プロジェクトの研究会において有益なご教示をいただいた、統計数理研究所データ科学研究系船渡川伊久子准教授、早稲田大学政治経済学術院野口晴子教授、摂南大学看護学部小堀栄子教授、またヒアリングにご協力頂いた岩手県雫石町に厚く御礼申し上げます。

2019 年 3 月
国立社会保障・人口問題研究所
「長寿革命に係る人口学的
観点からの総合的研究」
プロジェクト

(所内委員)

石井 太 (人口動向研究部長)
林 玲子 (国際関係部長)
山本克也 (社会保障基礎理論研究部長)
泉田信行 (社会保障応用分析研究部長)
是川 夕 (国際関係部第2室長)
別府志海 (情報調査分析部第2室長)
佐藤 格 (社会保障基礎理論研究部第1室長)
菅 桂太 (人口構造研究部第1室長)
井上 希 (社会保障基礎理論研究部研究員)

(所外委員)

大津 唯 (埼玉大学准教授)
金子隆一 (明治大学特任教授)
齋藤安彦 (日本大学教授)
佐藤龍三郎 (中央大学客員研究員)
篠原恵美子 (東京大学特任助教)
鈴木隆雄 (桜美林大学教授)
高橋重郷 (明治大学兼任講師)
橋本英樹 (東京大学教授)
堀内四郎 (ニューヨーク市立大学教授)
増田幹人 (駒澤大学准教授)
フランス・メレ (フランス国立人口研究所上席研究員)

目 次

第1部 研究概要

| | |
|--|---|
| 長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究 —第2報告書— | 3 |
|--|---|

第2部 研究論文

| | |
|---|----|
| わが国の複合死因データによる死因間の関連分析 石井太・林玲子・篠原恵美子・別府志海・是川夕 | 13 |
| 複合死因データの概況と突然死および認知症関連死亡の分析 林玲子・石井太・篠原恵美子・別府志海・是川夕 | 37 |
| 複合死因データを用いた糖尿病関連死亡の分析 別府志海・石井太・林玲子・篠原恵美子・是川夕 | 55 |
| 公的年金財政検証と統合的なマクロ計量モデル開発のための基礎的研究 佐藤格・石井太・山本克也・増田幹人 | 73 |

第3部 資料（本年度研究会等報告資料）

喫煙指標と肺がん死亡率の長期推移…………… 船渡川伊久子 …… 83

日本における行政データの活用を模索するー介護レセプトデータを中心にー
…………… 野口晴子 …… 91

（資料）自治体ヒアリング…………… 別府志海 …… 99

※ 第3回研究会「日本在住外国人のヘルシー・マイグランド効果研究ータイ人を対象とする質問票調査からー」（小堀栄子）の資料は、未発表データを含むため収録していない。